

四国運輸局におけるバリアフリーの取組

四国運輸局

交通政策部 消費者行政・情報課

令和元年7月17日

交通バリアフリーの推進の取り組み

①ソフト面のバリアフリー推進

四国運輸局では、交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティア意識を醸成し、誰もが高齢者・障害者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会を実現するため、平成13年度から「バリアフリー教室」を開催しています。

平成15年度からは、小学校の総合学習の一環としても開催しているほか、空港においても従業員等を対象とした教室や、愛媛県バス協会と共催で、従業員を対象としたバリアフリー研修会を実施。本年6月17日には、JR高松駅において、運輸局職員を対象とした「視覚障がい者サポート講座」を初めて開催しました。

今後もバリアフリー法の趣旨を踏まえ、四国各地で継続的に開催をしていきます。

【バリアフリー教室開催状況(平成13年度～平成30年度)】

年 度	開催回数	参加人数	年 度	開催回数	参加人数
平成13年度	1回	48人	平成23年度	7回	453人
平成16年度	5回	269人	平成24年度	8回	418人
平成17年度	3回	162人	平成25年度	8回	491人
平成18年度	3回	137人	平成26年度	8回	588人
平成19年度	5回	289人	平成27年度	6回	333人
平成20年度	7回	346人	平成28年度	9回	491人
平成21年度	8回	484人	平成29年度	10回	517人
平成22年度	10回	459人	平成30年度	9回	552人
			累 計	111回	6,361人

【バリアフリー教室の主な内容】

I. 車椅子利用者疑似・介助体験

車椅子を使って車いす利用者及び介助者双方の立場で体験学習を行います。

また、実際に車椅子を利用している方にアドバイザーとしてコースを同行してもらい、介助される方のご意見等を伺います。



II. 視覚障がい者疑似・介助体験

アイマスクを着用し、視覚障がい者及び介助者双方の立場で体験学習を行います。

また、目の不自由な方にアドバイザーとしてコースを同行してもらい、介助される方のご意見等を伺います。



III. 高齢者疑似・介助体験

加齢に伴う高齢者特有の身体機能状態を再現する器具を装着して、高齢者の身体的不自由さを体験するとともに、介助の方法を学習します。



②交通事業者への支援(各種補助制度の活用)

旅客施設、車両等のバリアフリー化を促進するため、国の各種補助制度により交通事業者を支援しています。

☆平成30年度に補助制度を活用して整備・導入された旅客施設、車両等

●鉄道駅における多機能トイレ設置	1 駅
●低床式車両	2 両
●ノンステップバス	23 両
●福祉タクシー（リフト又はスロープ付き）	1 両

③自治体への基本構想・移動等円滑化促進方針(マスタープラン)作成支援

基本構想制度のねらいは、

- 「個々」ではなく、「面的・一体的」なバリアフリー化を図ること。
- 「新築」ではなく、「既存」の施設のバリアフリー化を進めること。

市町村は、旅客施設の周辺地区など、高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区（重点整備地区）について、特定事業を定め、基本構想の作成ができることとされていましたが、今般の法改正により、基本構想を作成するよう努めるものとされました。

また、具体事業の調整が困難な場合には、移動等円滑化促進地区を指定し、バリアフリーの方針を定めるマスタープラン制度が創設され、作成経費の支援を行うこととしています。

四国運輸局は、これまで6市（丸亀市、高松市、松山市、高知市、今治市、徳島市）の基本構想策定協議会に参画し、情報提供や助言を行ってきましたが、未策定の市町村を中心に引き続き基本構想や移動等円滑促進方針作成を推進していくこととしています。

令和元年6月18日～20日 高松養護学校高等部の生徒4名（車椅子利用者）が運輸局で職場体験をしました。仏生山小学校での「バリアフリー教室」の運営補助や、執務室においては教室の報告書（運輸局HP掲載）作成等の事務仕事を体験。

その際、実習生から観光地やホテル、交通機関を利用したときに実際に困ったことや、その改善策等意見の提出がありましたので、その一部を以下のとおり紹介します。

（実習生からの意見等）

- ◆ホテルに泊まった時、部屋の中にあるユニットバスの浴槽が高くて1人で入ることができなかったため、浴槽の高さを低くしていただけるととても使いやすい。
- ◆駅に向かう道中に溝があり、全てに柵が設置されておらず、暗くなって通る時は危ないと思った。溝がある所や水路には柵をつけていただくと安心して通学することができる。
- ◆駅で切符を買う時に自動券売機の高くて車椅子に座ったままの状態では届かず、立ち上がって使用しなければならなかった。車椅子に座ったままでも使用できるように自動券売機を低くすると、スムーズに切符を購入できる。
- ◆自動改札機に切符を通そうとした時に、私は右手に障害があるため切符を入れるのに時間がかかってしまい、後ろから来た人にぶつかり転倒したことがあったため、左側にも自動改札機があるととても使いやすく、安全に移動することができる。
- ◆バスを利用した時にスロープ設置依頼の電話（事前連絡）をしたが、うまく伝わっておらず予定のバスに乗車できないことがあった。事前連絡をした場合、そのことをスマホ等で確認できるような機能（「予約済み」等の表示）があるとより安心して使用できる。
- ◆困った時に、どこまで支援を求めるべきか戸惑うことがある。